

第2期ロジスティクス環境会議 第6回企画運営委員会 議事録

I. 日 時：2007年11月16日（金） 10：30～12：10

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：20名

IV. 内 容：

- 1) 研究会、委員会の2007年度活動内容について
 - (1) グリーン物流研究会
 - (2) CO₂削減推進委員会
 - (3) グリーンサプライチェーン推進委員会
- 2) 環境負荷低減活動推進の手引き（仮称）作成について
- 3) 第3期活動について

V. 開 会

事務局の高浜理事より開会が宣された後、杉山委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 報 告

1) 第3回本会議について

事務局より、資料1に基づき、第3回本会議の日時及び会場についての説明がなされた。

2) CGLメンバー企業のCO₂排出量等の収集について

事務局より、資料2-1に基づき、CGLメンバー企業のCO₂排出量等の収集に係る経過について説明がなされた後、資料2-2に基づき、収集・分析結果の概要について説明がなされた。主な意見は以下のとおりである。

【主な意見】

委員：資料2-2の中で、運輸分野のCO₂排出量として254百万トンとの説明があったが、その中には自家用乗用車等も含まれていることから、それらを除いた物流分野としてのCO₂排出量を示したほうがよいと考える。

VII. 議 事

1) 研究会、委員会の2007年度活動内容について

(1) グリーン物流研究会

事務局より、資料3に基づき、グリーン物流研究会の活動方針、2007年度活動内容について説明が行われた後、同研究会の幹事である下村委員より、①メンバーの協力を得ながら活動を進めている、②第13回研究会については、可能であれば各委員会からの報告をお願いしたい旨の説明がなされ、了承された。

(2) CO₂削減推進委員会

事務局より、資料3に基づき、CO₂削減推進委員会の活動方針、2007年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の副委員長である高松委員より、モーダルシフトWGにおける検討の結果、鉄道輸送における課題が明確になりつつあり、それらに焦点を当てた提言を取りまとめたい旨の説明がなされた。続いて、同委員会の委員長である増井副委員長より、省エネ法におけ

る算定や集計に係る課題に対する提言を取りまとめた旨の説明がなされ、以下の意見交換の後、了承された。

【主な意見】

委員：CGLメンバー企業 96 社に対して、定期報告書等の収集数が 40 社分という結果は、少ない印象を持つ。収集数を増やす方策を検討してはどうか。

事務局：CGLメンバーにおける特定荷主、特定輸送事業者数で見ると、51 社中 33 社からご提供いただいていることから、ある程度は収集できていると考える。ただし、1 社でも多くの企業にご協力いただきたいと考えており、11 月 29 日に開催する「グリーン物流研究会/C O 2 削減推進委員会との共催研究会」時に呼びかけを行いたい。

委員：行政において、定期報告書、計画書等の収集・分析はどのように実施されているのか教えていただきたい。

事務局：所管部局との意見交換の中では、どの部分まで公表すべきか検討中とのことであった。逆に、11 月 29 日の共催研究会でパネリストとしてご登壇いただく予定なので、その際に、「このような形で集計してほしい」といった提案を行うことも一案だと考えている。

委員：定期報告書、計画書については、どのように記載すべきか悩んだ企業が多かったと考える。それらを提言に活かしていただきたい。

(3) グリーンサプライチェーン推進委員会

i) 取引条件分科会

事務局より、資料 3 に基づき、グリーンサプライチェーン推進委員会の活動方針、及び取引条件分科会の 2007 年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の委員長である山本委員より、①加工食品をモデルとして、多頻度小口配送削減のための共同配送推進ガイドの検討を進めている、②具体的には、加工食品におけるメーカー→卸・小売間の物流で出てくる中継業者の集約化に焦点をあてた検討を行っている旨の説明がなされた。続いて、同委員会の副委員長である恒吉委員より、①実効性の高いプランを取りまとめている段階にある、②「取引条件」と「共同配送」との間にギャップを感じる委員もいるかもしれないが、共同化により解決できる取引条件上の課題は多い、③共同化した結果、残った課題について、今後焦点をあてて検討すべきと考えている旨の説明がなされ、以下の意見交換が行われた後、了承された。

【主な意見】

委員長：どのようなシミュレーションを実施しているのか教えていただきたい。

委員：あるメーカーのある地域における生の出荷データを基に、仮想シミュレーションを実施した。ただし、“仮想”といっても、そのエリアの着荷主はほぼ網羅していることに加え、中継業者数、全体の物量の総量も実態に近い値で捉えていることから、ほぼ現実に即したシミュレーションになっていると考える。

委員：日本電線工業会において、工事現場への納入時に共同配送を実施するとともに、その実績値をホームページで公開しているのので、ぜひご参照いただきたい。

ii) 源流管理分科会

事務局より、資料 3 に基づき、源流管理分科会の 2007 年度活動内容について説明が行われた後、同委員会の副委員長である菅田委員より、①広範な領域をカバーする項目の設定や企業の活動状況が把握できるような評価軸の設定を実施している、②参考情報等の記載により、皆様に使っただけのようなチェックリストを作成する旨の説明がなされ、了承された。

2) 環境負荷低減活動推進の手引き（仮称）の作成について

事務局より、資料 4-1 に基づき、環境負荷低減活動推進の手引き（仮称）に関する第 5 回企画運営委員会承認事項の確認が行われた後、資料 4-2、4-3、4-4、4-5、4-6 に基づき、

手引きの編集方針（案）、初回配布スケジュールの前倒し（案）、原稿（案）、タイトル（案）について説明が行われた。続いて、手引き検討WGの幹事である下村委員より、①配布の前倒しにより検討期間は短くなったものの、うまく整理できつつある、②資料4-5のP3、4の体系図について、過不足項目があればご教示いただきたい、③資料4-5のP13、14のチェックリストについては、活動領域の広さを示すために、暫定版であっても掲載したい旨の説明がなされ、以下の意見交換の後、手引き検討WGに一任することが了承された。

【主な意見】

＜資料4-5について＞

（物流分野におけるCO₂排出量等の値）

委員：「物流分野の現状とともに、物流に携わる全企業で努力して削減していかなければいけない」といったことが認識しやすい内容にすべきと考える。

委員：運輸分野としてくくりとされてしまうため分かりにくい印象があることから、物流に特化した内容にしてはどうかと考える。

（P3 体系図について）

副委員長：「排出量の削減」といった視点が強いが、例えば、燃料使用量等の「インプットの削減」といった視点も盛り込むことができると考える。

委員：ご指摘の事項、及び循環型社会の実現という視点で考えると、「CO₂削減」を「省エネ・CO₂削減」に、「廃棄物削減」を「資源循環・廃棄物削減」としてはどうか。

（P2 環境問題とロジスティクス）

副委員長：NO_xやPMといった大気汚染についても紹介してはどうかと考える。

事務局：WGにおいても検討を行ったが、全体の流れを考えて、今回はCO₂と廃棄物に焦点を絞った。

委員：次年度は、我が国全体として温暖化対策に力点を置くことは明白な状況となっており、そのような動向等が分かるような内容にしてはどうかと考える。

委員：そのレベルまで至っていない企業が本手引きの主な対象になると考える。

事務局：P1の「手引きのねらい」の中で、「2008年は京都議定書の約束期間開始とともに、洞爺湖サミット開催といったことで、地球温暖化問題対応に向けて節目の年になる」といった紹介を行っている。

事務局：本ページの構成としては、環境問題全般を紹介した上で、温暖化にしばってという形で考えたい。

＜新年賀詞交歓会における配布方法について＞

委員：新年賀詞交歓会で配布することには賛成であるが、ただ配布するだけではなく、「手引きの内容」とともに「環境会議の活動」についてもぜひご紹介いただきたい。

事務局：新年賀詞交歓会の中の新春講演会の中で5分ほど説明する時間を設ける方向で検討している。また、新年賀詞交歓会前に実施している記者発表会でも紹介する予定である。

＜第2版について＞

委員：第2期CGLのアウトプットが完成した段階で、修正版を作成するのか教えていただきたい。

事務局：ご指摘のとおり、アウトプットの完成を受けて、第2版を作成する。

3) 第3期活動について

事務局より、資料5-1に基づき、第3期活動を検討するにあたっての基本的な考え方について説明がなされた。続いて、資料5-2に基づき、第2期の評価等に関するアンケート調査結果の説明がなされた後、資料5-3に基づき、アンケート結果の考察と第3期活動実施（案）について説明がな

され、以下の意見交換が行われた後、了承された。

【主な意見】

(人的ネットワークの形成に関して)

委員：第1期では、委員自らが調査を実施する等により、人的ネットワークの構築はできたものの、結果として膨大な作業負荷がかかったという反省があった。第2期は、事務局主導で活動を進めているため、委員への負荷は少なく、個人的には参加しやすいが、第1期のよ
うな形に戻すことも視野に入れているのか教えていただきたい。

委員：委員会については現状どおり事務局主導で実施したいと考えるが、研究会については少人数で活動を実施するのも一案だと考える。

(外部との係りについて)

委員：J I L Sの視点から、第2期についての評価や反省が必要だと考える。また、①環境会議の活動が外部に分かるようになってきているのか、②他団体との連携といった視点について、今後必要になると考える。

委員：人的ネットワークの重要性は否定しないが、内向きの印象を持つ。環境会議の外部に対しても、積極的に発信していくといった姿勢も合わせて必要だと考える。

(次回の検討に際して)

委員長：資料5-3の図のとおり、「現状から目指すべき姿にするためにどのようなことが必要になるか」といったことから次回の内容の検討ができるのではないかと考える。

委員：次回の検討の際に、事務局案をベースに議論をするのか、②委員から意見をいただく形とするのか教えていただきたい。

事務局：事務局案を提示する形とする。ただし、事務局案策定にあたり、個別にご意見をきくと思うので、その際にご協力いただきたい。

(その他)

委員：「参加費用」と「活動で得られた情報」といったことに関する評価も必要ではないかと個人的に考える。

IX. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了し、杉山委員長は閉会を宣した。

以 上